

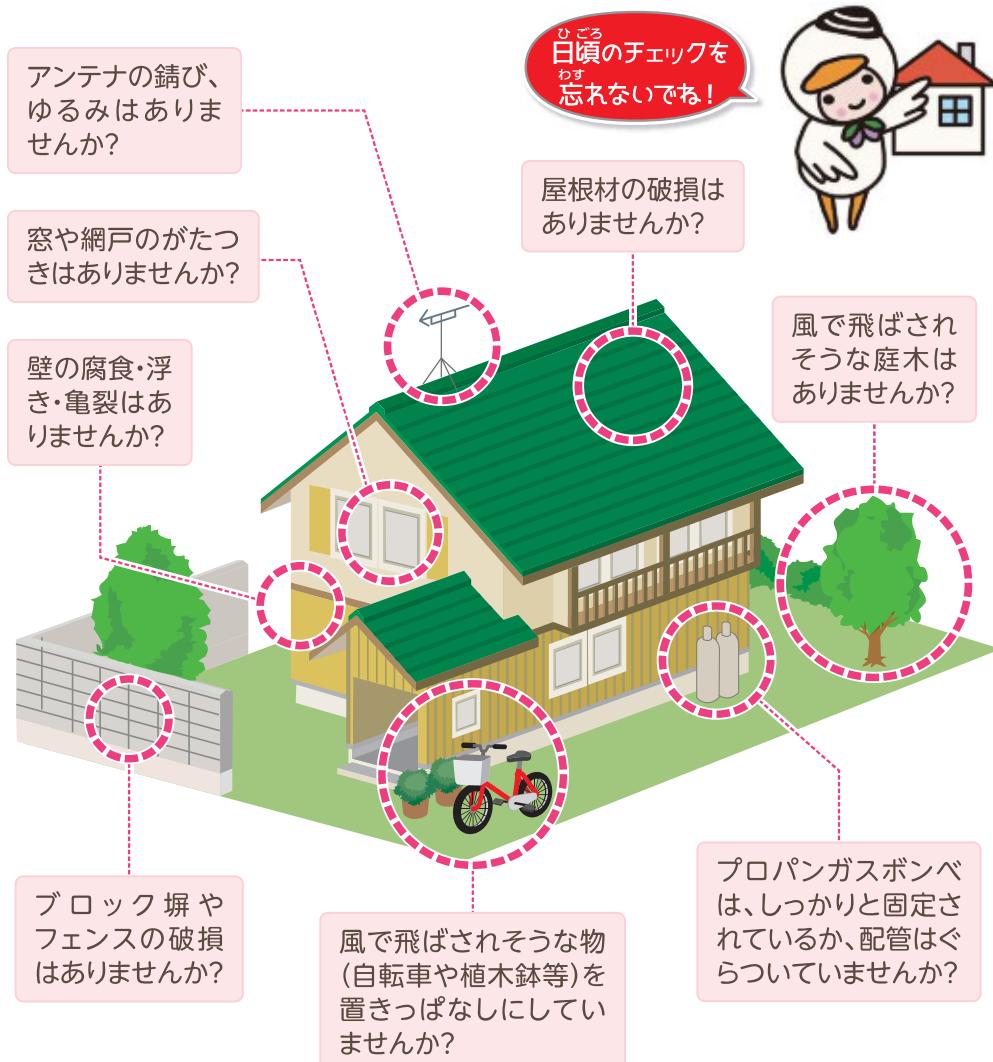
身近な雨や風は時に猛威をふるう!!

風水害・土砂災害に備える!

大雨・強風・台風…日頃からの安全対策をしっかりと!!

台風や集中豪雨では強風や激しい雨が降るため、時として家屋への浸水、河川の氾濫、土砂災害など様々な被害が想定されます。日頃の安全対策と、危険が迫ったときの対策を知っておきましょう。

▶ わが家の風水害対策チェック



天気予報や
気象情報に注意！



不要に外出しない！



危険を感じたら
早めに避難！



季節を問わず発生！竜巻!!



- 頑丈な建物の中へ避難
- 屋内でも、窓や壁から離れる



ゴロゴロに要注意！落雷!!



- 雷鳴が聞こえたらすぐに避難
- 建物の中や自動車へ避難
- 木や電柱から4m以上離れる

大雨に注意！水の怖さを知ろう

気象庁から記録的短時間大雨情報が発表されるほどの大が降ると、災害発生の危険が高まります。大雨が予想されるときは水辺に近づかないようにし、気象情報に十分注意してください。

歩ける深さは膝下まで！



水深が腰まであつたり、浅くても水の流れが速い場合は無理をせず、高い場所で救助を待ちましょう。

みずなかある
水の中を歩ける
ふか深さはだいたい
30cmくらい
なんだって

車が浸水したらすぐ外へ！



水深が30cmに達すると車のエンジンが停止する可能性があり、水深と流速が増すと車ごと流される危険があります。

避難に遅れたら…



自宅の2階か近くの頑丈な建物の2階以上に逃げましょう。

避難するときは、ひもで締められる運動靴などを履きましょう!



こんな前ぶれ現象に注意！土砂災害から身を守る!!

一般的に土砂災害は、降雨や融雪で地中の水分が増して地盤が緩み、さらに長雨や強雨が続いたときなどに発生するとされています。次のような現象を察知した場合は、直後に土砂災害が起こる可能性がありますので、直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、関係機関へ通報してください。

時間的切迫性



●流水の異常にごり



●流木が発生
●渓流内の転石の音



●降雨時での水位の低下
●山鳴り・地鳴り

土石流

山や川の石や土砂が、大雨などにより水と一緒にあって激しく流れ下る現象。



●湧水量の増加
●井戸水のにごり



●亀裂の発生



●山鳴り・地鳴り

地すべり

雨や雪どけ水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象。



※地すべりの予測は技術的に困難であり、土砂災害警戒情報の発表対象となっていないので注意してください。



●湧水量の増加



●小石がぱらぱら落下
●湧水がにごる



●小石がぼろぼろ落下
●亀裂の発生

がけ崩れ

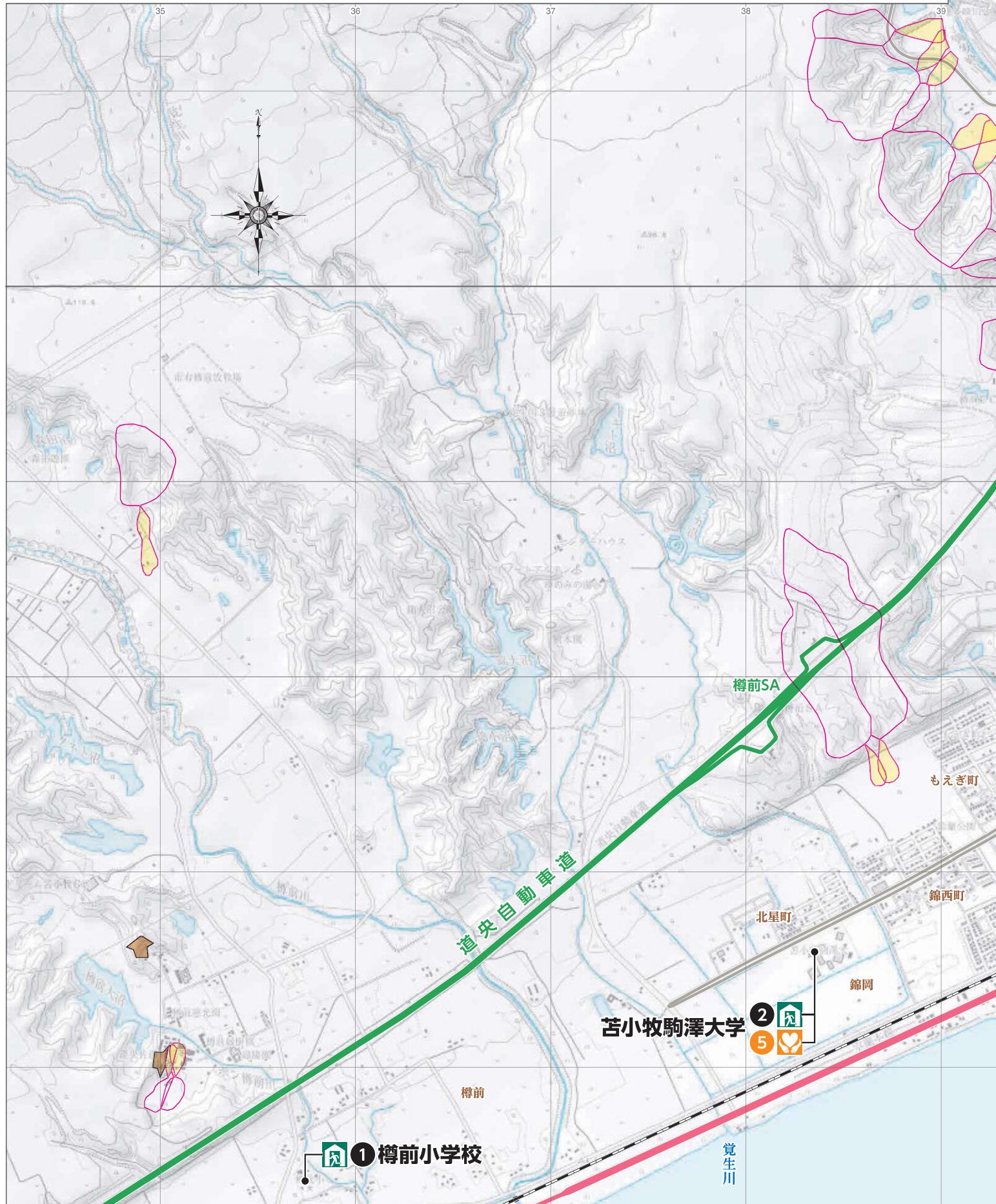
雨や雪どけ水、地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象。



洪水・土砂災害ハザードマップ①

洪水浸水予測・土砂災害危険箇所図

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。
(承認番号 令元情便、第415-GISMAP43000号)





洪水・土砂災害ハザードマップ②

洪水浸水予測・土砂災害危険箇所図

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。
(承認番号 令元情便、第415-GISMAP43000号)

44 45 46 47 48

凡 例



指定避難所



福祉避難所

土砂災害

はん淵域

流域 土石流危険箇所



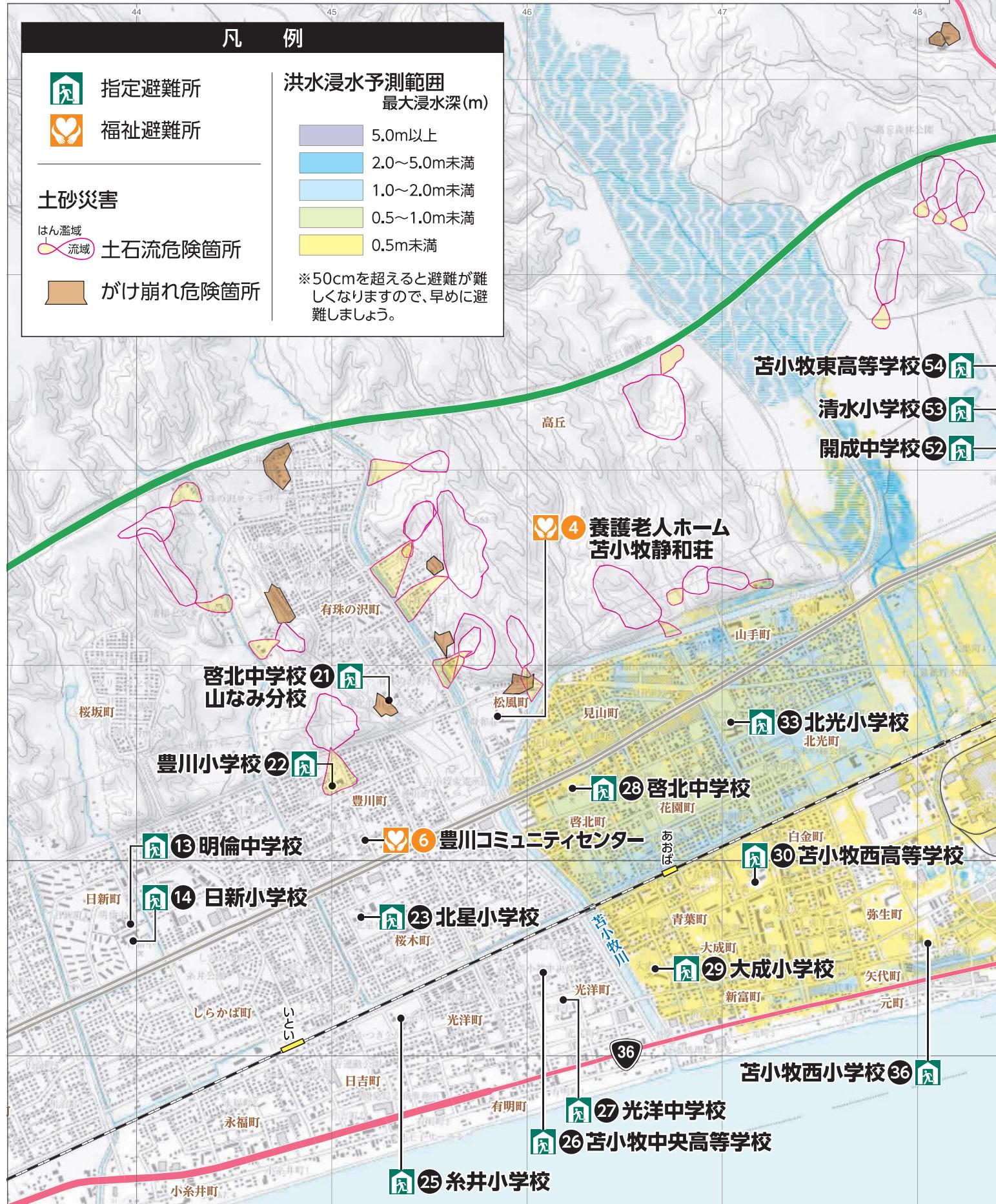
がけ崩れ危険箇所

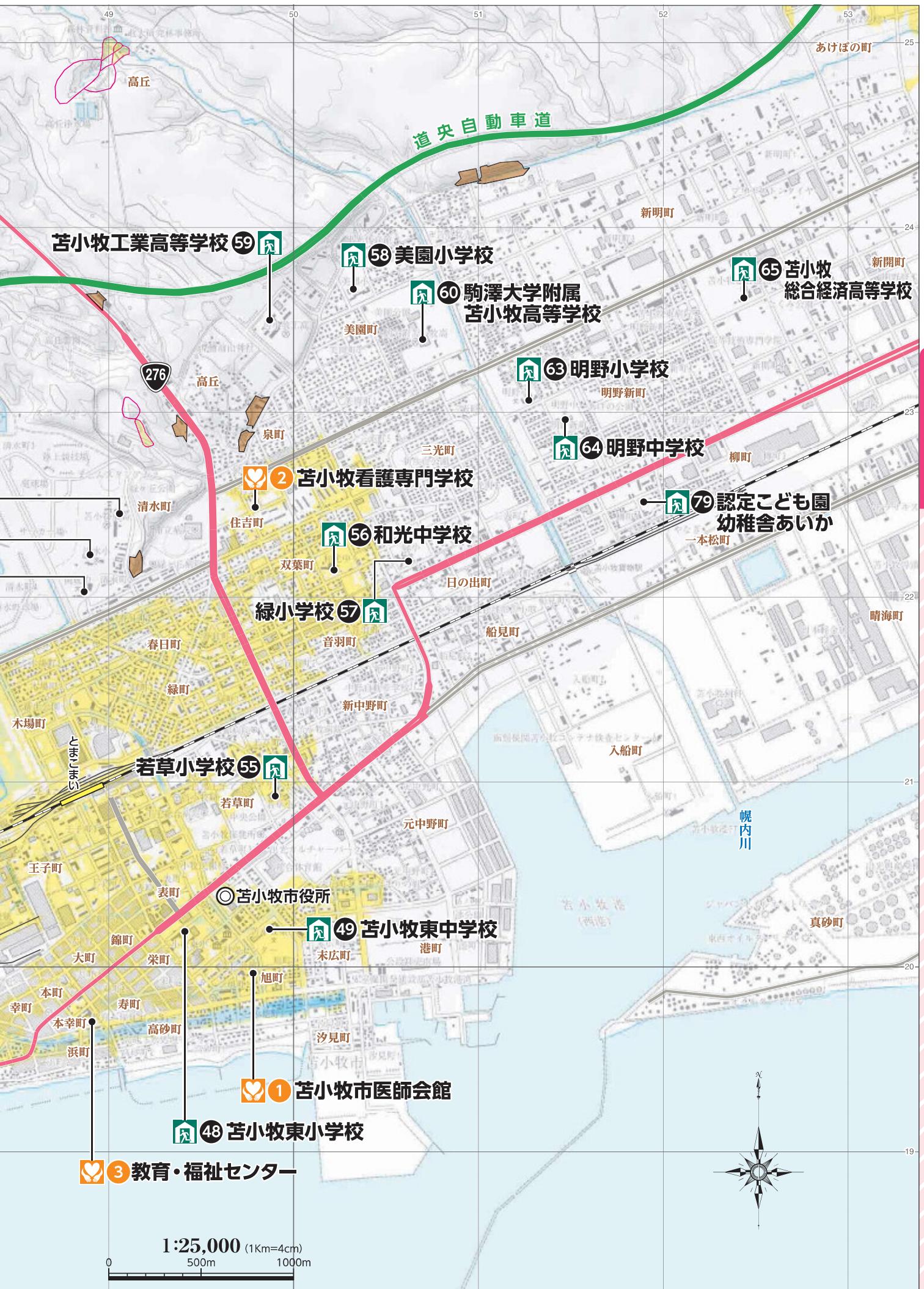
洪水浸水予測範囲

最大浸水深(m)

5.0m以上
2.0~5.0m未満
1.0~2.0m未満
0.5~1.0m未満
0.5m未満

※50cmを超えると避難が難しくなりますので、早めに避難しましょう。



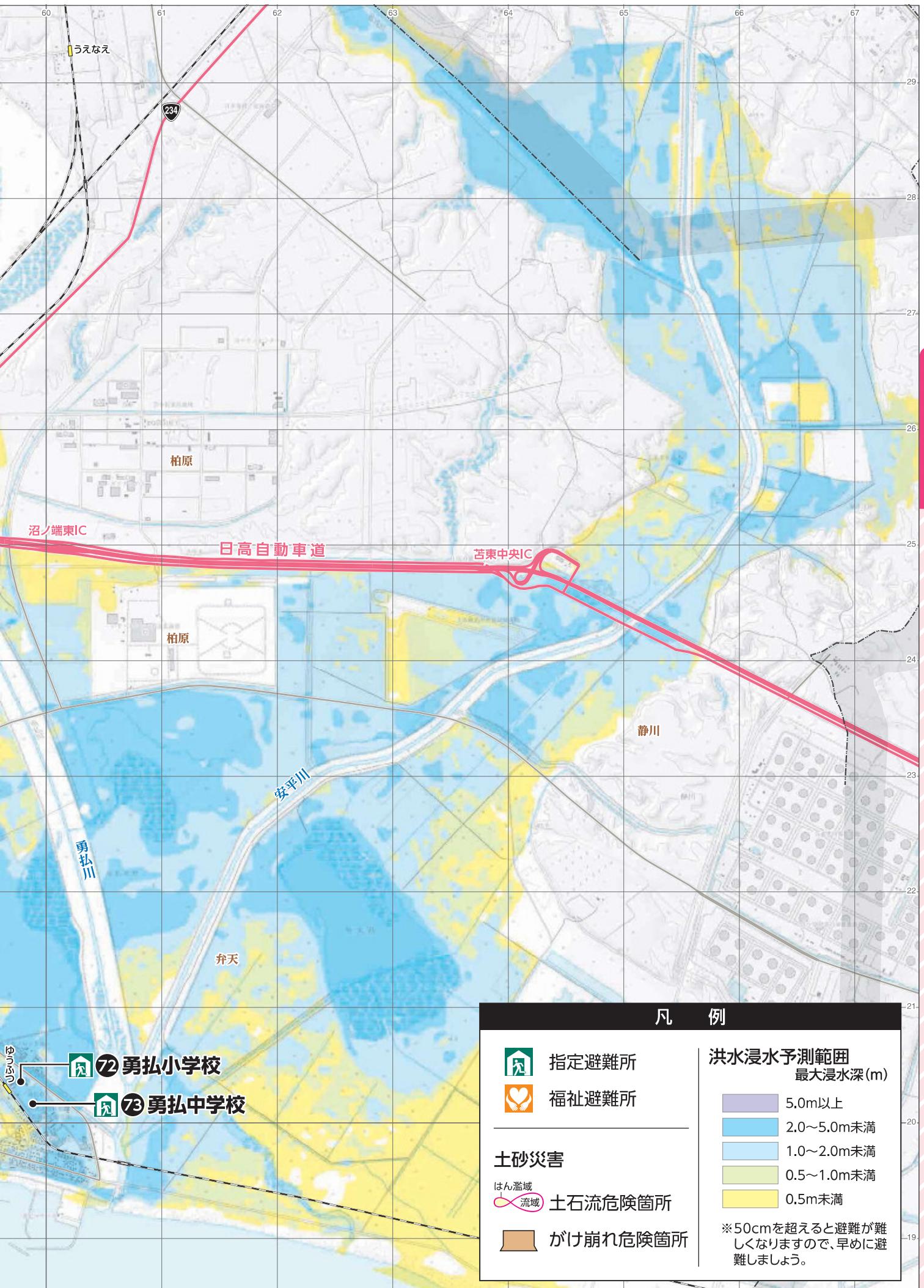


洪水・土砂災害ハザードマップ③

洪水浸水予測・土砂災害危険箇所図

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。
(承認番号 令元情便、第415-GISMAP43000号)





② 勇払小学校
③ 勇払中学校